

平福百穂 画と短歌

—百穂をめぐるひとたち—

仙北市角館町出身の日本画家・平福百穂（ひらふくひゃくすい、1877-1933）は日本画家としてだけではなく、アララギ派の歌人として活躍したことで知られています。

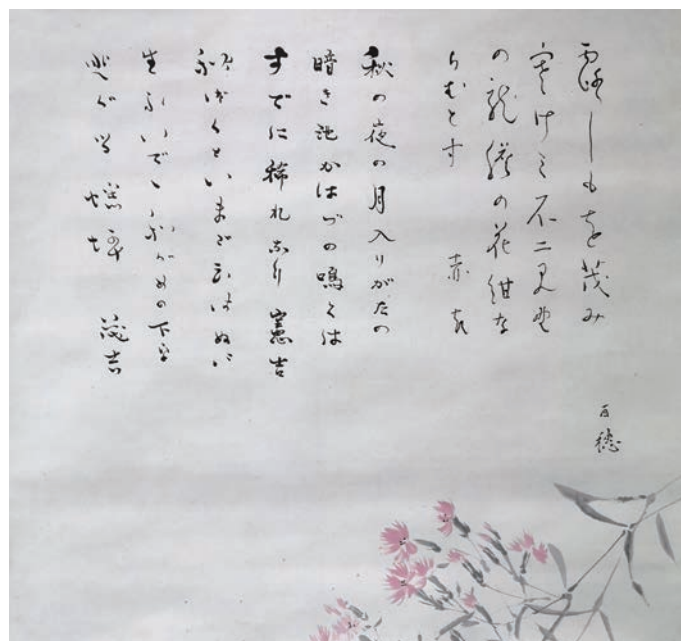
画家になるために十七歳で川端玉章（かわはたぎやくしやう、1842-1913）の画塾に入門しますが、画塾の塾生だった結城素明（ゆうきそめい、1875-1957）と知り合ったことがきっかけで、素明から歌人・伊藤左千夫（いとうさちお、1864-1913）を紹介され短歌の世界へも興味を持つこととなり、島本赤彦（しまかあひこ、1876-1926）、長塚節（ながつたかし、1879-1915）、斎藤茂吉（さいとうもきち、1882-1953）、中村憲吉（なかむらけんきち、1889-1934）といったアララギ派の歌人たちとの交流も広がっていました。

今回、画家としての百穂と歌人としての百穂を紹介しつつ、百穂と交流のあった人たちについても紹介したいと考え展覧会を企画しました。百穂がどんな人たちと関わりを持ちながら、どんな作品を描いたのかを知っていただく機会になれば幸いです。

角館町平福記念美術館



平福百穂



「アララギ歌人合作」



平福百穂「木槿の頃」



平福百穂「溪山白雲」



※さくらまつりの期間、駐車場は有料となります。